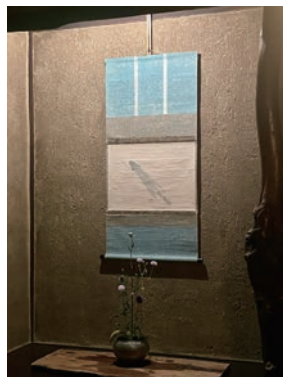


6月のお茶の稽古の床飾り。掛物は雨傘だがスルメイカに見えるところの声もあった。



カフェでは3種のお茶のアイスや様々なお茶に合わせた5つのスイーツを注文。



## 暮らす旅 京都 店通いの作法

祇園にある古い町家を改造した日本茶メインのカフェ。

文・写真／松岡伸吾(暮らす旅舎)

元の人に取材すると、行くのは顔馴染みの店ばかりで、新しい店は雑誌で見ても、まず行かないという方が多かった。行くとしても、知っている料理人が独立したとか、知り合いの紹介とか、店選びはほぼ口コミだ。

実は骨董屋さんの店主にも、料理店に詳しい人が多い。骨董屋めぐりのついでにおすめ店を聞くのも「暮らす旅ならではのアイデア」と紹介したこともあった。

コロナ禍の最中は別にして、京都に来るたびに寄るバーが先斗町にある。常連が多いその店では、いつの間にか客同士で話をはじめるといって客に出会った。宇治の茶商がオーナーで、お茶にこだわる店と知って、早速翌日行ってみた。古い町家を改造した店内は抹茶とスイーツで心地よい時間が過ごせた。今回紹介した店は、茶柱探検隊の編集部に問い合わせてもらえればお教えします。悪しからず。



半年の穢れを祓う茅の輪くぐり。6月30日でなくてもできる今宮神社。



烏丸通の店で見つけた団扇飾りに、3年ぶりに復活する祇園祭の山鉾が。

時間があれば、顔を出したい店が何軒かある。一見さんお断りでも、予約必須の人気店でもなく、近くにきたらふらりと寄ることができる。そんな馴染みの店が、暮らす旅には必要不可欠だ。喫茶店、バー、居酒屋、料理店など数は多くないが、どこも大切な場所だ。とはいえないつも3日ほどの滞在なので、全部は回れない。昔勤めた会社の社長は、銀座のバーとクラブを倶楽部活動と称して連日梯子をしていたものだが……。あれじゃあ、お金も身も、持ちはしない。

暮らす旅の流儀では人との繋がりが大切。これが一番。

京都市役所そばから山科に移った韓国料理店には、10年以上通っているが、今や家族ぐるみの付き合いとなり、先日は昼に行って、店を出たのは夕方5時近かった。貸切状態でもあったので、売上に協力できたわけではないが、参院選で盛り上がり、とびきりの近江牛とスライスした胡瓜をたっぷり入れた真露を満喫した。

その昔「京都食手帖」という書籍で地